

# 年 報

(平成21年度)



田麦俣から月山を臨む

林 野 庁 東北森林管理局

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

## 目 次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 活動状況概要             | 1  |
| 朝日庄内プロジェクトの見直し     | 3  |
| 朝日山地森林生態系保護地域の保全管理 | 4  |
| 緑の回廊における取組         | 7  |
| 庄内海岸林等の保全活動        | 10 |
| 森林環境教育の推進          | 12 |
| インターンシップの受け入れ      | 15 |
| 各種イベント             | 16 |
| 関連新聞記事             | 17 |

平成21年度 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動状況(概要)

| 活 動 事 項                | 取 組 内 容   |
|------------------------|---|
| (1)朝日庄内プロジェクトの見直し      | 「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会(3回)<br>(9/24、10/29、12/10)   |
| (2)朝日山地森林生態系保護地域の保安全管理 | 管理委員会(7/3)<br>巡視員会議(7/4、12/12)<br>合同パトロール(8/1～2)<br>七曲ショートカット標識設置(5/27) 撤収(11/5)<br>スノーモービル乗入に関する関係団体との意見交換(11/18、12/24、1/27)<br>スノーモービル実態調査等(4/17、20、27、3/26～27)<br>朝日連峰保全協議会(5/22、9/26～27)  |
| (3)庄内海岸林等の保全活動         | 森林ボランティア活動<br>クロマツ林整備(下刈り)(6/25)<br>森林ボランティア活動の支援<br>酒田北高校:松林整備ボランティア活動(5/27)<br>光ヶ丘松林整備ボランティア活動(6/27、9/26)<br>JTの森森林整備(9/19)<br>遊佐中学校:森林整備体験学習(10/8)(荒天中止)<br>「出羽庄内公益の森づくりを考える会」<br>(第1回:5/26、第2回:8/27、第3回:2/27)<br>クロマツシンポジウム(11/28)<br>万里の松原に親しむ会総会(4/11)<br>庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(3/6) |
| (4)緑の回廊における取組          | 土湯の森自然再生実施協議会(5/20)<br>土湯の森自然再生の取組<br>森林再生ゾーンでの植栽作業(7/8)<br>森林再生ゾーンでの更新補助作業(刈払い)(7/31)<br>モニタリング調査(10/17)<br>ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち(11/14)   |

| 活 動 事 項       | 取 組 内 容  |
|---------------|--|
| (5) 森林環境教育の推進 | <p>朝日自然塾プログラムの開講(3回: 6/13、6/26、7/11)<br/> 朝日自然塾連絡協議会(11/27～11/28)<br/> 巣箱づくりと探鳥会(万里の松原に親しむ会)(10/31)<br/> クロマツ探検隊(西荒瀬保育園)(3回: 4/10、9/8、10/20)<br/> 木工クラフト教室(西荒瀬保育園)(2回: 12/14、3/9)<br/> 森の遊えんち(朝日村観光協会)(3回: 10/10、10/17、2/20)<br/> 日本山岳会山形支部・HAT-J山形支部の生物多様性研修に講師派遣<br/> (1/22)</p>   |
| (6) 各種イベント等   | <p>山開き(朝日連峰: 5/31、6/13、6/26、月山: 7/1)<br/> 庄内森とみどりのフェスティバル(鶴岡会場)(10/24、25)<br/> 庄内森とみどりのフェスティバル(酒田会場)(11/3)<br/> 山形県国有林野等所在市町村長有志協議会(8/27)<br/> 山形県森林協会総会(5/18)<br/> 庄内地方林業振興協議会(5/14)<br/> 高館山自然休養林管理運営協議会総会(5/8)<br/> 朝日地域山岳遭難救助対策委員会(7/17)<br/> 森林文化都市実践事業説明会(8/11、3/25)<br/> 月山ダム水源地域ビジョン推進協議会(4/21、8/28、12/22)<br/> 地域森づくり報告会(最上会場 1/17、庄内会場 1/30)</p> |
| (7) 広報        | <p>広報誌の発行 2回(11/26、3/3)<br/> このほか号外として月山周辺でブナの葉を大規模に食害して話題となった<br/> ウエツキブナハムシについて紹介した。<br/> ホームページ 随時更新<br/> (11/1より局サーバ移行にともなうリニューアル)<br/> <a href="http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/index.html">http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/index.html</a></p>  |

# 1 朝日庄内プロジェクトの改訂

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは平成16年に策定した「森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト（朝日庄内プロジェクト）」に基づき業務を行ってきたが、5年が経過し本プロジェクトを取り巻く情勢や本プロジェクトに対する期待も変化してきていることから、プロジェクトの改訂について検討するため、学識経験者等からなる「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会（座長・小野寺弘道山形大学農学部教授）を設置し、プロジェクトの改訂を行った。

|               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 9月24日（木）      | 第1回「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会 |
| 10月29日（木）     | 第2回 ”                      |
| 11月10日～11月30日 | パブリックコメント                  |
| 12月10日（木）     | 第3回「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会 |

新プロジェクトでは、生物多様性の把握とその適切な保全をより重視するとともに、これまで進めてきた朝日山地森林生態系保護地域の保全や鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備、庄内海岸林や高館山の保全活動、朝日自然塾の更なる充実に向け、生物調査に取り組む団体などの参画を要請するとともにサポーターの募集なども行い、新たなネットワークを構築することとしている。

なお、2月4～5日に秋田市で東北森林管理局が行った森林・林業技術交流発表会において、この取り組みについて局内外に広報した。



## 2 朝日山地森林生態系保護地域の保全管理

### 管理委員会（7月）

朝日山地森林生態系保護地域管理委員会を7月3日（金）に山形市の自治会館で開催。モニタリング調査やボランティア巡視活動などについて論議。



### 巡視員会議（春季）

朝日山地森林生態系保護地域の夏山シーズンの巡視活動を前に、7月4日（土）、春季巡視員会議を鶴岡市（旧朝日村）の「朝日山村開発センター（すまいる）」で開催。

今年度の活動方針などについて意見交換。会議終了後は勉強会として「朝日軍道と長井山岳会」をテーマに長井山岳会竹田憲策氏が講演。



**巡視員記章デザイン決定**

朝日山地森林生態系保護地域巡視員が公募により決定。このデザインのワッペンと帽子を、巡視員に配布。

## 合同パトロール

朝日山地森林生態系保護地域の保全管理の取組として、8月1日(土)～2日(日)に巡視員と国有林関係者による合同パトロールを4ルートで実施。各コースとも入山者へのマナー指導とゴミの回収を行いながら、保全管理に係わる事項について点検を行った。

| ルート       | 月日       |
|-----------|----------|
| 大鳥池       | 8月2日(9名) |
| 天狗角力取山    | 8月1日(3名) |
| 祝瓶山       | 8月2日(4名) |
| 朝日川(朝日俣沢) | 8月1日(3名) |



天狗角力取山



祝瓶山



朝日俣沢



三角池のほとりで

## 巡視員会議(秋季)

講師の吉田岳氏



朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議(秋季)を12月12日(土)に山村開発センター(すまいる)で開催。巡視結果に対する意見交換等が行われた。

会議終了後は勉強会として「チベット未踏峰から日本の野山へ」と題して、山形山岳連盟のヒマラヤ遠征に参加しヤラシャンポ登頂を果たした小国山岳会の吉田岳氏による講演を実施。



## スノーモービル乗り入れ実態調査

朝日山地森林生態系保護地域及び月山周辺におけるスノーモービルの乗り入れについて、4月17日（金）、20日（月）、27日（月）、3月26～27日（土日）に実態調査を実施。森林生態系保護地域への乗り入れは月山周辺では確認されなかった。また、鳥原山周辺への乗り入れ情報が寄せられたため、乗り入れ地点であるAsahi自然観スノーパークでも、3月28日（日）にマナーガイドを配布して啓発活動を実施。



## 出谷川巡視

9月9～10日、かねてから幕営とゴミが問題となっていた出谷川を巡視。一張りのテントを発見し、幕営が禁じられている旨を伝えて撤収を求めたところ、相手方は「知らなかった」と素直に応じた。テン場には「幕営禁止」の簡易標識を設置。



## 朝日連峰保全協議会の登山道修復に参加

昨年まで環境省が保全修復実証試験として実施してきた登山道の保全修復と植生復元を継続するため、山岳関係者等からなる朝日連峰保全協議会が発足。9月26日～27日に銀玉水周辺で実施した保全修復に当センターも参加。山岳団体等の多くのボランティアが参加。



### 3 緑の回廊における取組

第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会を5月20日（木）に戸沢村役場において開催。前年度の活動、モニタリング調査結果等の報告を踏まえ、平成21年度「土湯の森」づくりについて、引き続きブナ等の植栽、更新補助のための刈り払いを継続することなどを決定。また、モニタリング調査は、当初対象としていた樹木だけではなく、センサーカメラなどを活用した動物の把握もしていくこととしたほか、引き続き地域の子供たちや地域住民を含めたボランティアに参加を呼びかけながら再生の取組を実施することを確認。



#### 「土湯の森」自然再生の取組

#### ～ 森林再生ゾーンでの植樹（山取苗の植え付け）～

7月8日（水）、山取苗の植栽を実施。平成20年秋に山取したブナやイタヤカエデなどの約300本を、スキー場跡地でもっとも植生回復が遅れている箇所に植栽。戸沢中学校の一年生と先生のほか、地元住民や神室山系自然を守る会など約90名が参加。



## ～ 森林再生ゾーンでの更新補助作業（刈り払い）～

7月31日（金）、生育しているカエデ類などの稚幼樹の保育や更新補助を目的にススキ等の刈り払いを実施。昨年に続いて戸沢村を訪れていたアジア学院の留学生と地域住民や神室山系の自然を守る会など多くの方が参加。作業終了後「幻想の森」を散策しながら日本の森林にふれた。



## ～ ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち体験～

旧最上川スキー場周辺では以前からカシノナガキクイムシによるナラ枯れが発生していたが、今年は旧ロッジ付近でも多くの被害が発生したため、当初計画を変更して被害木の処理を実施。カシノナガキクイムシの幼虫は枯損木の中で成長し翌夏羽化して被害を拡大するため、この住み家を短尺処理により乾燥させて駆除するもの。

11月14日（土）、あいにくの雨の中、また新型インフルエンザの影響で子供達の参加が得られない中、18名の参加者により伐倒処理を実施。

また、伐倒木上部の虫害のない箇所にはシイタケやナメコなどキノコのコマ打ちを実施した。



雨の中の作業を終えて

## ～ モニタリング調査～

10月17日（土）、山形大学農学部の高橋教夫教授と学生8名の協力を得て、3回目の植生モニタリング調査を実施。発生稚樹を把握するために設定した4プロット（森林再生ゾーン〔刈払区、対象区〕、自然推移ゾーン〔、〕）と、植栽したブナ等の稚樹を対象。

調査結果をみると、森林再生ゾーンの発生稚樹は、前年同様30cm未満のスギが大半を占め、プロット内の調査結果からは刈払いの効果は未だ認められない。しかし、プロット外には刈払い後に急速に成長した樹木も少数ながら認められた。一方、自然推移ゾーンでは、31cm以上が9,500本/ha、61cm以上が4,500本/haと生長した稚樹も多く見られ、順調な更新を示していた。

また、植栽木の調査では、前年植栽木の被害率は前回調査時の92%から80%に減少、正常活着率は同59%から72%に増加、枯死率は同7%から23%に増加、平均苗高は同35cmから34cmと、上長成長は見られないが安定した状態であった。一方、当年植栽木の被害率は18%、正常活着率は97%、枯死率は0%、平均苗高は53cmと前年植栽木より良好な結果となっており、植栽苗の樹高や根系の発達が良好であったこと、客土の肥料成分を抑制したことが影響したものと考えられた。



自然推移ゾーンの調査

## センサーカメラによる動物調査

土湯の森周辺の動物相を把握する目的で平成21年6月2日～9月30日までセンサーカメラを設置。ツキノワグマなど8種の哺乳類とヤマドリなど2種の鳥類が記録された。



アカネズミ



ツキノワグマ



タヌキ



ハクビシン



ノウサギ



テン



リス



カモシカ



ヤマドリ



クロツグミ

## 4 庄内海岸林等の保全活動

### 森林ボランティア活動

#### ～クロマツ植樹地で下刈り活動～

6月25日(火)、酒田市の新林国有林内のクロマツ植栽箇所で、西荒瀬保育園児25名と保護者25名が下刈り作業を実施。作業指導の森林管理署・山形県・酒田市の職員などを加え、70名が参加。

保育園児に鎌を使っての下刈り作業は危険なので、ハサミで植栽木周辺を刈り払う「坪刈り」を行った後、保護者達の鎌による刈り払いで仕上げ作業を実施した。



### 森林ボランティア活動の支援

#### ～光ヶ丘松林整備ボランティア活動～

6月27日(土)、酒田市及び山形県主催の「酒田市都市公園等環境美化活動」が光ヶ丘公園周辺で開催。総参加者数は約230人。当センターは協賛団体として参加し、第二会場で約30人の市民ボランティアに刈払い作業などの森林整備活動を指導。また、9月26日(土)にも同様の活動を実施。



## ～ 中・高生の森林整備ボランティア活動～

5月28日（金）、酒田市の北港緑地公園周辺（宮海国有林）のクロマツ林で行われた酒田北高等学校の全校生徒（222名）による森林ボランティア活動を指導。酒田北高等学校の生徒会活動の一環として毎年実施しているもので、「出羽庄内公益の森づくりを考える会」が支援を行っているもの。



## ～ JTの森づくり活動～

JT日本たばこが、山形県、鶴岡市、下川生産森林組合と協定して、森林整備活動に取り組む「JTの森 鶴岡」が、9月19日（土）、第1回目の森林保全活動（徐伐、下刈り）を実施。参加者は約190名。当センターも、参加したJT社員や地元市民等に徐伐・下刈りを指導。



## 5 森林環境教育の推進

### 朝日自然塾の開講

朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺をフィールドとして、森林や自然の働きを体感し自然との付き合い方を学ぶ体験活動型の森林環境教育を実施。21年度は6回計画したものの、荒天等により3回中止。

#### カッチャバ湿原で初夏の昆虫観察

6月13日（土）山形市内の小学生親子22人が参加して開催。カッチャバ湿原についた頃から小雨模様となったが、子供達は生き生きと湿原の昆虫やイモリを追っていた。

草の影には出始めハッチョウトンボも見られた。湿原探検の後はセミナーハウスで世界の昆虫の標本やオオムラサキの蛹などを間近で観察した。



ハッチョウトンボ発見！

#### 伝説の大鳥池を訪ねて

6月26日（金）朝日小学校5年生30名、先生やスタッフなども含め総勢47名で、大鳥交流体験学習として実施。

ブナの木に触れたり、草花や昆虫を観察したり、残雪や雪融け水に手を浸したりしながら、全員元気に大鳥池に到着。梅雨の晴れ間の登山を満喫した。



伝説の大鳥池をバックに全員で記念撮影

#### 釣りキチあつまれ！朝日山地で森とイワナを学ぼう

7月11日（土）西川町大井沢の大井沢川で小学生等の親子41名の参加で開催。

イワナの仕掛けや、川での注意事項等の説明の後、3班に分かれて大井沢川へ。期待を胸に早速竿を振り込むと、まもなくあちこちで釣れはじめ、子供も親も夢中で渓流釣りに興じた。

午後はセミナーハウスで、イワナを焼いて食べたり「森とイワナの話」など講師の話を聞いて楽しい一日を過ごした。



イワナ  
ゲット！

## 朝日自然塾連絡協議会の開催

11月27日（金）西川町大井沢のセミナーハウスで朝日自然塾連絡協議会を開催。21年度のプログラム実施結果と評価、22年度のプログラムの策定について意見交換を実施。



セミナーハウスで行われた連絡協議会

## みどりの保育園の支援

西荒瀬保育園は保育園児の森林環境教育を展開しており、当センターも年長組26名に指導を実施。

4月10日（金）クロマツ探検隊 樹木の花や芽、サギのコロニーなどを観察。種の飛ばしくみの体験。

4月28日（火）巣箱づくり シジユウカラ用巣箱の作成と設置。

6月16日（火）創作紙芝居による環境教育。

9月8日（火）クロマツ探検隊。

10月20日（火）鳥海山で観察会 鳥海高原家族休暇村付近の森林で観察会。

11月17日（火）緑再生里親事業 10月の観察会で拾った木の実をポットに蒔付。苗は後に山に植林する予定。

12月14日（月）クリスマスツリー制作 保育園児がドイツトウヒの「松ぼっくり」をツリーに見立てて、モールやビーズで飾り付けた。

2月15日（月）クロマツの歌を合唱。

3月9日（火）木工クラフト教室。木の枝を顔にみたてたストラップ「モックン」を作成。



サギのコロニーを観察



巣箱づくり



創作紙芝居



ポットに種まき



秋の鳥海山で観察会



ツリー制作



クロマツの歌を合唱

## 「森の遊えんち」を支援

あさひむら観光協会が主催し湯殿山スキー場の中台池周辺で行われた森の遊えんちを支援。森の遊えんちは、鶴岡市が掲げる「森林文化都市」を推進する環境教育プロジェクト。より多くの市民に森林の中に入ってもらうため、「森林に入るハードルを低くする」をキーワードに、自然の素晴らしさ、不思議さの体感、危険性の理解を目指したプログラムを展開。



黄葉の中台池で森の遊えんち

10月10日（土） ブナの森をいろんな不思議を探しながら散策したり、絵本やハンモック

10月17日（土） などでゆったりとした時間を過ごした。また、遊んだ森にどんな生きものがいるのか調べるため自動撮影装置を設置し、17日に回収。タヌキなどの生息を確認。

2月20日（土） かんじきでも腰まで沈む新雪をこいでブナの森を探検。森の中では、巣箱調査やソリなどを楽しんだ。連続して参加した子供たちは、同じ森の様子の違いに驚くとともに、特にハシゴで高く掛けた巣箱が低いことで雪の深さを実感。



雪のブナ林で

## 「巣箱作りと探鳥会」を指導

10月31日（土） 万里の松原に親しむ会が実施した「巣箱づくりと探鳥会」を指導。

前年に設置した巣箱の利用状況を確認した後、シジュウカラ用とアカゲラ用の巣箱を作成した後、渡り途中の冬鳥等を観察しながら巣箱を設置。



昨年設置した巣箱で繁殖したシジュウカラ

## 6 インターンシップ受け入れ

8月5日から11日まで、平成21年度東北森林管理局インターンシップを受け入れ。この制度は、実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として実施しているもの。今年度は、山形大学、日本大学の3名の学生が、ふれあいセンターが行っている森林生態系保護地域の保全管理や自然再生・森林環境教育等の業務について実習した。

### 実習内容

| 月日       | 内 容                                      |
|----------|--|
| 8月5日(水)  | オリエンテーション、局からセンターに移動<br>ふれあいセンターの事業概要説明等 |
| 8月6日(木)  | 高館山・庄内海岸林巡視活動                            |
| 8月7日(金)  | モニタリング調査(センサーカメラ設置)<br>室内業務              |
| 8月8日(土)  | 土湯の森自然再生活動実践                             |
| 8月9日(日)  | 朝日山地巡視活動(古寺鉱泉～小朝日岳)                      |
| 8月10日(月) | 緑の回廊巡視(鳥海山)<br>モニタリング調査(センサーカメラ回収・解析)    |
| 8月11日(火) | 室内業務・オリエンテーション                           |



庄内海岸林で巡視活動



朝日山地巡視 小朝日岳頂上で



土湯の森(最上川スキー場跡地)で自然再生活動



## 7 各種イベント等

### 庄内森とみどりのフェスティバル

庄内森とみどりのフェスティバルが、10月24日（土）、25日（日）鶴岡市で、11月3日（火）酒田市で開催。当センターもパネル展示等で参加し、センターの取組や活動等をPR。



ふれあいセンターブース



お馴染みの「銘水」コーナー



センサーカメラの獲物を紹介



好評だった石立て



顕微鏡でブナハムシを観察

平成21年度

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター 関連新聞記事

# 白布平ブナ林を探検

朝日自然塾 16日、小中生親子募る

東北森林管理局と、朝日山  
地森林生態系保護地域管理委  
員会の構成団体でつくる朝日  
自然塾運営協議会は、十六日  
に小国町の白布平ブナ林で開  
く朝日自然塾「新緑の白布平  
ブナ林探検」の参加者を募集  
している。

当日は午前九時、同町の  
針生平（はななりだいら）駐  
車場に集合。つり橋を渡る  
体験やムササビの巣穴観察  
のほか、地元猟友会のメン

バーにマツギの話聞いた  
り、木の幹などにできる空  
洞「樹洞」の中に入っ  
ての記念撮影もある。昼食ではイ  
ワナの塩焼きが振る舞われ  
る。

小中学生の親子が対象で先  
着三十人。参加費は大人三百  
円、子ども二百円。十一日ま  
でに申し込む。問い合わせは  
鶴岡市の朝日庄内森林環境保  
全ふれあいセンター02355

(508)1730。

H21.5.8 山形新聞

平成21年6月26日(金)

山形新聞 朝刊掲載記事

# クロマツ大きくなって

酒田・西荒瀬保育園  
親子で下草刈り



クロマツの周辺に生えている雑草を刈り取る園児ら  
酒田市宮海

酒田市の西荒瀬保育園へ佐藤千鶴子園長の年長児と保護者らが25日、同市宮海のクロマツ造林地の下草刈りに汗を流した。

同保育園は松くい虫被害が相次いでいるクロマツ林を守るべく2007年、東北森林管理局朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターと共に、近

くの二万本の松原の約400平方メートルにクロマツの苗木150本を植えた。年一回の下草刈りは成長を助けるためで、昨年度に続き「やまがた緑環境税」を活用した。

この日は、年長児と保護者、市内の環境保全団体の関係者ら約70人が参加した。同センターの職員から説明を受け、早速、作業を開始。園児たちは、はさみでクロマツの周辺に生えているドクダミやススキなどを根元から切り取り、保護者らもかまを使って除草した。池田湖雪ちゃん(5)は「丈夫で大きなクロマツに育ってほしい」と話していた。

この日は、年長児と保護者、市内の環境保全団体の

平成21年6月30日(火)

### 庄内日報 掲載記事

## 松林を未来へ

酒田 市民らが美化活動

酒田市などが主催した「環境美化活動ボランティア」が27日、同市の光ケ丘公園と万里の松原で行われた。市民らが一帯の下刈りやごみ拾いに汗を流した。

先人が残してくれた美しい松林を自らの手で守り育てていくこと、植林事業に取り組んだ本間家第3代・光丘翁(1773-1801年)の没後200年の200年かのような素晴らしい

ら毎年、市が、県庄内緑合支庁とともに実施している。

今回は庄内海岸のクロマツ林をただよぶ会、万里の松原に集む会など、近隣の環境保全団体、自治会や小中学校、県、同市などから計2000人が参加した。

関係行事では、同市の阿部寿一市長が「小さな力でも積み上げる、このよ



ができる、すがすがしい気持ちで帰郷して、同支庁の酒原亮一支庁長が「この活動も10回目、松林を未来につなげていくため継続して」と、それぞれあいさつ。その後、2班に分かれて万里の松原と光ケ丘公園計約1・8総で作業した。

この場所では各団体がボランティアで清掃活動に当たっているが、それ

でも二帯には、折れた枝や空き缶やペットボトルの容器などが散乱。雑草も50センチほど伸びており、ごみ袋を手にした参加者たちは「ごみはかなりの少なくなっているよすが、それでもまだある」と話しながら懸命に作業していた。

清掃奉仕活動を盛り広げる参加者たち

平成21年6月28日(日)

### 山形新聞 朝刊掲載記事

## クロマツ林守ろう 市民ら200人草刈り

酒田



クロマツ林を守る環境美化活動が27日、酒田市光ケ丘地区で開かれ、市民やボランティア団体の関係者が草刈りなどに汗を流した。写真。

地元住民や市内の小中学校の児童、生徒ら約230人が参加。阿部寿一市長と酒原亮一県庄内総合支庁長があいさつした後、参加者たちは都市公園「光ケ丘公園」と国有保安林「万里の松原」の2カ所

に分かれて活動を開始。チェーンソーやかま、のこぎりを使い、約2分の松林の草刈りやつる切り、不要木の伐採に取り組んだ。

先人が残した砂防林を守り、育てていく意識を高めてもらうとの狙い。県と同市が2000年度から主催し、10回目。

### 定点調査地点を追加

朝日山地森林生態系保護地域 管理委が方針

本県と新潟県にまたがる朝日山地の朝日山地森林生態系保護地域の重要な森林生態系を保全するた管理委員会(座長・小野寺弘、地元の有識者や自然保護道山形大教授)の本年度会合(団体代表)山形、新潟両県が3日、山形市の県自治会館の担当者と構成、事務局はで開かれた。本年度から原生関東、東北の両森林管理局に林内の人的影響を見るモニタ置く、委員会では生態系保全にリンゴ調査地点をこれまでのつづける管理方法や巡視活動3カ所から、新たに4カ所追加するに決めた。

2008年度に設置された08年度のモニタリング調査

では、調査地点がカ所山菜などの個体数に大きな変化がなかったことが報告された。08年度は、毎年行ってきた定点調査の場所を新たに4カ所増やし、5年に1度のペースで各地を回ることにした。委員からは「一定点のみの変化を調べるのではなく、広い視野での調査が必要ではないか」といった意見が出された。保護地域内でのスノーモービルの乗り入れに関しては、環境への影響を考慮し、愛好者団体と調整を図る方針が示された。

2009年(平成21年)7月5日(日曜日)

政治・行政

山

開

採

2009年度の活動方針などを確認した巡視員会議

＝鶴岡市・朝日山村開発センター



### 啓発指導など活動確認

鶴岡 朝日山地保護の巡視員会議

朝日山地森林生態系保護地域の保全を目的に、東北森林管理局が委嘱した巡視員による会議が4日、鶴岡市の朝日山村開発センターで開かれ、2009年度の活動方針を確認した。

本年度は、自然保護活動に取り組み県内の各団体や鶴岡市朝日町各などから計83人が巡視員として活動する。この日の会議には約40人が出席。東北森林管理局側が、入山者に対する巡視員の役割について▽こみの持ち帰りの啓発、指導を行う▽高山帯や湿原地

帯では既存の歩道を利用し、自然の植生を傷めないように呼び掛ける▽猛禽(もつぎん)類の生息が確認できる場所へは近づかないように啓発する。などと説明。また、8月1、2の両日、以東岳や大朝日岳方面などで合同パトロールを行うことも決めた。

保護地域内外のスノーモービル乗り入れ問題については、巡視活動を通じて動物の生息状況を確認するほか、植物の損傷状況などの実態を引き続き把握して対策を考へていくことを申し合わせた。

27 山形 2009年(平成21年)9月4日 金曜日

## 庄内



### ブナ枯れ深刻

#### ハムシ大発生被害拡大

山月・湯殿山

山月や湯殿山でもブナの葉がハムシに食われて枯れ、被害が拡大している。ハムシは体長約2ミリ、赤褐色のハムシがブナの新芽を食害している。ハムシはブナの新芽を食害し、新芽が枯れる。被害は山月や湯殿山だけでなく、庄内各地でも発生している。

山月や湯殿山でもブナの葉がハムシに食われて枯れ、被害が拡大している。ハムシは体長約2ミリ、赤褐色のハムシがブナの新芽を食害している。ハムシはブナの新芽を食害し、新芽が枯れる。被害は山月や湯殿山だけでなく、庄内各地でも発生している。



被害が拡大している。ハムシは体長約2ミリ、赤褐色のハムシがブナの新芽を食害している。ハムシはブナの新芽を食害し、新芽が枯れる。被害は山月や湯殿山だけでなく、庄内各地でも発生している。

# 自然保全策を刷新

朝日庄内プロジェクト検討委が初会合

東北森林管理局が主管し、庄内を中心にした森林生態系保護地域などで保全活動などを展開する「朝日庄内プロジェクト」のリニューアル検討委員会（座長・小野寺弘道山形大農学部教授）の初会合が

24日、鶴岡市の山形大農学部で開かれた。

同局は月山、朝日山系などの自然を保全する拠点として、2004年に朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを設置。これに合わせ、森林

生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクトを策定した。スノーモービル問題では、朝日連峰などの生態系保護地域周辺で実態調査を展開、松くい虫による被害が拡大している庄内海岸林では、地域住民とともにクロマツの植栽活動に取り組んできた。

今回は、これまでの活動を取りまとめ、今後の活動方針を新たに策定することが狙い。検討委は庄内地域の自然愛護団体や大学教授など有識者8人で構成。初会合では、プロジェクトの展望などについて意見を交わし、委員からは「地域住民に積極的に協力

を求めていくべきだ」「自然災害に対する森林の現状認識が大切」といった意見が出された。第2回の会議は10月下旬に開く予定で、事務局が新プロジェクトの素案を示す。検討委のメンバーは次の通り。（敬称略）

太田威（尾浦の自然を守る会長）小野寺弘道（山形大農学部教授）桑嶋誠一（山形新聞論説委員長）佐藤尚有（西川町大井沢支所長）高橋教夫（山形大農学部教授）長南厚（出羽三山の自然を守る会常任理事）三沢英一（万里の松原に親しむ会長）山本益生（鶴岡市農林水産部長）

# 森林保全計画を改定

## 朝日庄内プロジェクト検討委がスタート

山形、新潟両県にまたがる朝日山地や庄内海岸のクロマツ林、高館山の自然休養林について、林野庁や地方自治体、地域住民が連携しながら森林生態系の保全などに取り組み「朝日庄内プロジェクト」の第1回リニュー

アル検討委員会が24日、鶴岡市の山形大農学部で開かれた。同プロジェクトは、林野庁東北森林管理局の朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター（鶴岡市



新プロジェクト策定に向けて第1回検討委員会が開かれた

下名川)が2004年に策定。「朝日山地」「島海岸林」「高館山」の4エリアについて、自然保護団体の協力を得ながら森林植生のモニタリング調査や巡視活動、環境美化活動などを進めてきた。

策定から5年が経過し、各市町の環境保全への対応などプロジェクトを取り巻く環境が変化していることから、これまでの活動を取りまとめることにもプロジェクトをリニューアルすることにした。

東北森林管理局と同センターが事務局となる新プロジェクトの検討委員会を設置。庄内地方を中心とした環境保護団体や市町村の関係者、学識経験者ら8人がメンバーとなり、これまでの取り組み

を踏まえ、この日の第1回委員会には委員全員と事務局合わせて約20人が出席。現行のプロジェクトの総括として、これまでの取り組みと課題について話し合った。

このうち朝日山地の入れ替わりについて、自然保護団体の協力を得ながら森林植生のモニタリング調査や巡視活動、環境美化活動などを進めてきた。

策定から5年が経過し、各市町の環境保全への対応などプロジェクトを取り巻く環境が変化していることから、これまでの活動を取りまとめることにもプロジェクトをリニューアルすることにした。

東北森林管理局と同センターが事務局となる新プロジェクトの検討委員会を設置。庄内地方を中心とした環境保護団体や市町村の関係者、学識経験者ら8人がメンバーとなり、これまでの取り組み

を踏まえ、この日の第1回委員会には委員全員と事務局合わせて約20人が出席。現行のプロジェクトの総括として、これまでの取り組みと課題について話し合った。

H21.9.25 荘内日報

2009年(平成21年)10月30日(金曜日)

政治・行政

1A

1A

1A

1A

### 庄内中心の森林生態系保全プロジェクト 検討委で新素案に意見

東北森林管理局の朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターが所管し、庄内地域を中心とした森林生態系保護地域などで保全活

動などを展開する「朝日庄内プロジェクト」のリニューアル検討委員会(座長・小野寺弘道山形大農学部教授)の第2回会議が29日、鶴岡市の庄内森林管理署で開かれた。

事務局が新たなプロジェクトの素案を提示し、マメールマガジンの定期発行を導入し、地域団体へ情報提供を積極的に行うマ

高館山の保全活動では、市などと連携し森林環境教育を実践していくことなどを新たに盛り込んだ。これに対し、委員からは「啓発活動は重要」「内陸地域の小学生を対象にした森林環境教育も大切では」などの意見が出された。第3回の会議は12月上旬に開き、新プロジェクトの概要を決める。

〈2009年9月26日〉

東北森林管理局の朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターが所管する「朝日庄内プロジェクト」が5年を経過し、見直されることになった。このプロジェクトは、地域と連携した森林の保全管理を目指し、森林生態保護地域などで森林の保護と利用、再生を図っているという試み。広大なエリア内で実現を図っていくためには山岳会、自然保護、釣り愛好など関係団体、NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの支援、協力が欠かせない。まずは関係団体・者のネットワークの充実を図っていく必要がある。

国有林野を管理・経営する林野庁は、事業の赤字が膨らむ中、事業の縮小を図る一方で、新たな国有林のあり方を模索している。その一方策として考え出されたのが「国民参加による管理経営」で、さまざまな取り組み、プロジェクトを通じて国民との接点を拡

## 社説

### 朝日庄内プロジェクト

## 協力態勢を広げ見直し

大していく。一環として各森林管理局がモデルプロジェクトを実施することになり、東北森林管理局は2004年に鶴岡市（旧朝日村地域）と青森県鯉ヶ沢町の2カ所に森林環境保全ふれあいセンターを設置した。鶴岡市のセンターは同年策定した朝日庄内プロジェクトの推進主体となってきた。

地元と連携しながら進めている。このほか、「やまがた公益の森」構想、森林環境教育、六十里越街道歴史資源活用事業などへの協力、支援を行っている。ほぼ5年が経過し、関係する自治体や県山岳連盟、県溪流釣り協議会、県猟友会、万里の松原を親しむ会、アル

の保護地域で、モニタリング調査をするだけでも容易ではない。しかもセンターの常勤職員は4人。多くの団体の協力を得ても計画通りの事業実施は物理的に難しいという問題点を抱える。

最大の課題は、より多くの人の参加を得て森林の保護、再生を図るかという点にある。森林の地球温暖化防止に果たす役割、森林学習による教育効果などは広く認められているところだ。それらを集約し、総合的に推進するには現在のセンターだけで十分だろうか。環境省や国土交通省、文部科学省などの国が所管する組織、民間の関係団体との協力、ネットワークが必要ではないのか。センターはこうした組織、団体の情報を収集、発信する機能の充実を図りたい。見直しでは、より広範な協力態勢の構築ができるようなプロジェクトも設定したい。それが森林づくりの国民参加につながる。

朝日庄内プロジェクトは、大別すると4つに分けられる。①朝日山地森林生態系保護地域の保全管理の鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊内における自然再生など②庄内海岸林の保全活動③高館山自然休養林の保全活動④高館山モニタリング調査、森林整備や巡視活動、ボランティア活動の指導や支援、最上川スキー場跡地の植生復元などを

ゴディア研究会など計15団体と連携しながら活動を進めてきたが、あらためてプロジェクトを見直すことにした。外部有識者らによる検討委員会の協議を踏まえながら年内にも見直し案をまとめる。こうした中でグロースアップされているのが担当するエリアの広さ。朝日山地森林生態系保護地域だけでなく7万坪に及ぶ。全国でも最大規模

**「森の遊園地」  
親子で  
自然を満喫!**

10月10日(土)、中台池  
ブナの森(湯殿山スキー場  
の上部付近)にて「森の遊  
園地」が10月10日と10月  
17日の2回に分け開催され  
ました。取材した10日は約  
20名の親子が参加し、それぞ  
れ自己紹介。ゲームで体を  
暖めながら親睦を深め、そ  
の後、中台池を一周する森  
の散策へと出かけました。  
山道は一人が通るのがやっ  
との細い道。小川を渡り、  
木の幹をくぐり、漆に触れ  
ないように避け、気を付け  
ながらの大変な道程。途中、  
天然のなめこを発見し、お  
墨のキノコ汁用にみんな  
採取しました。子供達はイ  
モリなどをつまみ大喜び。  
昼食はさつき採ってきた



ゲームをしながら  
身体を暖めよう!

「天然のなめこ」や「くり  
たけ」「ひらたけ」「もたし  
「あかみず」など入った具  
だくさんのキノコ汁を皆  
でいただきました。やっぱ  
り、天然で取れたてのなめ  
こは美味しかった。昼食後  
は、ハンモック、絵本、お  
やつなどを楽しみながら、  
しばしの休息。最後に、森  
の動物を撮影するため、自  
動撮影装置をしかけ、この  
日は終わり。次回17日に回  
取すること、森の動物たち  
が、もしかしたら写  
っているかも?この企  
画により、親子の絆や自然の  
大切さを改めて気づかされ  
気がしました。(栗)



上郷町の栗貝さん親子



楽しい山道



自動撮影装置に映っていた  
ボンドヌキ



美味しとうとうキノコ汁!



ハッピーフェイス

(C)「朝日庄内森林環境保全  
ふれあいセンター」

平成21年10月28日(水)発行

## サポーター組織設立へ 森林保全の朝日 来年秋をめどに 庄内プロジェクト



朝日庄内プロジェクトの改訂案について  
了承した検討委員会  
＝鶴岡市・庄内森林管理署

東北森林管理局が主管し、庄内地域を中心とした森林生態系保護地域の保全活動などを展開する「朝日庄内プロジェクト」のリニューアル検討委員会の第3回会議が10日、鶴岡市の庄内森林管理署で開かれた。来年秋ごろをめどに活動を支援するサポーター組織の設立などを盛り込んだ、今後5年間の指針となるプロジェクト改訂案を了承。国や自治体、各団体などの情報共

有化を図り、森林保全活動を進めていくことにした。新プロジェクトでは、進めてきた朝日森林生態系保護地域の保全や鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊整備、庄内海岸林や高館山の保全活動、朝日自然塾などの実施に向け、新たに「サポーター会議」(仮称)を設ける。関係地域の自然保護などに取り組む団体の参画を要請する一方、サポーターの募集なども行い来年秋をめど

に設立を目指す。また、国や自治体、同会議などの情報の共有化、ネットワーク強化を図っていく。  
2004年に同局朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター設置に合わせ、森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト(朝日庄内プロジェクト)を策定。朝日連峰などの生態系保護地域での実態調査や庄内海岸林では地域

住民とともにクロマツの植栽活動などに取り組んできた。プロジェクト導入から5年が経過し、指針の見直しを図るため、庄内地域の自然愛護団体や大学教授など有識者8人によるリニューアル検討委員会(座長・小野寺弘道山形大農学部教授)を設置。プロジェクトについて協議を重ねる一方、パブリック・コメントなども行ってきた。

# 生態系保全へ取り組み

朝日山地

## 巡視員らが意見交わす

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議が12日、鶴岡市下名川の朝日山村開発センターで開かれ、巡視員や東北森林管理局の担当者らが本年度の巡視結果などについて意見交換した。

本県と新潟県にまたがる朝日山地の保護管理を目的に、同管理局は20

04年度から県内の自然保護団体や山岳会、猟友会、行政などの関係者70人に巡視員を委嘱。面積約7万畝の森林生態系保護地域の巡視活動に取り組んでもらっている。

この日の会議は本年度の巡視活動を総括し、今後の活動の充実が目的。巡視員約40人をはじめ同

管理局、庄内、山形、置賜の各森林管理署、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター、環境省羽黒自然保護官事務所などから約50人が出席。

はじめに同管理局が、8月に泡盛ダム・大鳥池一三角池方面など4コースで実施した巡視員合同

おくと登山道は山に戻ってしまふ。登山者がいる限りある程度の管理はすべきではないか」といった意見が出た。

パトロールなどについて説明し、「こみは全体的には少な々マナー向上が感じられるが、登山口駐車場など一部のコースでは多い場所もあった」と報告。月山地区へのスノーモービル乗り入れについては、「月山特別ルール」として愛好団体が定めた保護地域内への乗り入れを自粛する自主規制が、愛好団体との協議の結果、2010年以降も継続されることになった。

意見交換では、登山道の管理について巡視員から「刈り払いなどの整備をせずに、3年も放つておくと登山道は山に戻



朝日山地森林生態系保護地域の保全について巡視員らが話し合った

(9) 2010年(平成22年)2月18日(木曜日)

12

### 募集

【山形】県国際交流協会は韓国の文化を知る講座「サランヘ♡コリア」の参加者を募集。講師は、ソウル出身の県国際交流員パク・ヘサンさん。3回講座で、27日(土)は韓国で流行しているものやニュースを伝える「韓国最新事情」、3月13日(土)は「韓国の恋愛・結婚事情」、同20日(土)は最近人気の穴場スポットを紹介する「ソウル特集『サランヘ♡ソウル』」。各回とも霞城セントラル2階の県国際交流センター研修室で午後1時半～3時。1回当たりの参加費は300円。氏名、住所、連絡先、希望の講座日(複数受講可能)を明記し、同協会までファクスか電子メールで申し込む。同協会は電話023(647)2560。ファクス023(646)8860。電子メールairy@jan.ne.jp

【飯豊】県飯豊少年自然の家は27日(土)～28日(日)に同少年自然の家で開催する自然体験事業「いいてアドベンチャーキッズ～冬の冒険隊～」の参加者を募集。1泊2日の日程でスノーランタン作り、スノーチューブ滑り、手作りそり滑りなどに挑戦する。対象は小学3年から中学3年までで、定員

は36人。参加費は2500円。締め切りは20日。同少年自然の家研修係0238(74)2331。

【長井】中央地区公民館は和紙人形教室の受講者を募集。3月3、10、17の毎週水曜日午前9時半～正午の3回コースで、会場は勤労センター。参加費は材料費として3500円。はさみ、鉛筆、物差し、お手ふき、あればペンセットを持参すること。24日まで申し込む。同公民館0238(84)5869。

【西川】朝日自然塾は3月6日(土)に開催する「かんじきトレッキングで親雪体験 囲炉裏(いろり)でマタギの話の聞ころ」の参加者を募集。かんじきを履いて舎那山(しゃなさん)まで雪上トレッキングをしながら樹木の冬芽観察や動物探索をする。昼食では大井沢名物のひきずりうどんとイワナの塩焼きを食べた後、マタギの話聞く。当日は午前9時に大井沢のセミナーハウスに集合。小中学生の親子が対象で、先着25人。参加費は大人1000円、子ども500円。申し込みは26日まで。朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター0235(58)1730。

# 用水路 今はコウモリ洞穴

鶴岡・朝日村「へぐりのまんぼ」

## 江戸時代に掘削、水流れず

天井に冬眠中のコウモリが数十匹。鶴岡市本郷の大馬川(赤川)沿いにある洞穴は、江戸時代に掘られた農業用水路の跡だ。しかし河床沈下のため一度も使われなまま、コウモリの楽園となった。

この洞穴は「へぐりのまんぼ」と呼ばれる。「へぐり」は絶壁や川岸などの険しい道を示す「へつり」が語源で、「まんぼ」は鉱山用語の「間府」。鉱脈や坑道のことだ。旧朝日村には鉱山が多く、金・銀・銅・鉛・亜鉛・硫化鉄などを産出していた。

### 3年で200本

「朝日村史・土巻」による

と、1729(享保14)年に鶴岡の酒屋、科皮屋仁兵衛が大馬川から金峯山のもと庄内平野に農業用水を引こうと善工した。1日100人の作業員を動員し、タガネと金づちで崖壁を掘ったが、難工事が続いた。3年かけて直径1・8尺、延長2000本のトンネル3本が完成したものの、大馬川の河床沈下のため一滴の水も流せなかった。

(清水亮)

特別の許可をもらって、あさひむら観光協会の上山剛司さん(28)と「へぐりのまんぼ」に入った。朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの山口昭雄さん、庄司卓矢さんも同行した。国道112号にかかる名川橋近くの鉄階段から川岸に降り、雪の残る傾斜を十数分歩いて「まんぼ」の入り口に。穴は下層部分(延長約40尺)につなが

り、その上方約4尺にある別の入り口が、洞穴の上層部分(同約50尺)へと続く。

### 100匹近く冬眠中

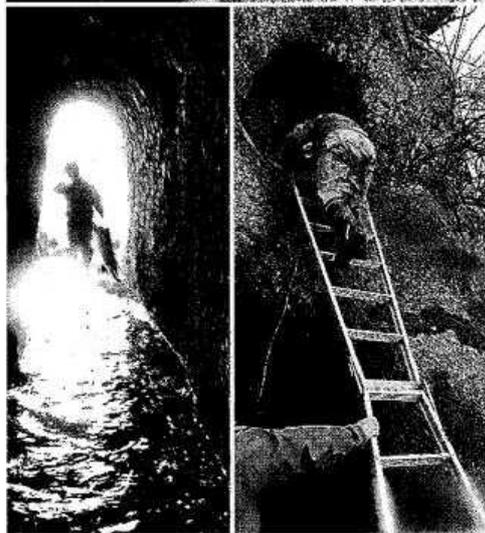
コウモリが利用するのは、上層部分だ。岩肌人が削った跡が残るトンネルは幅1・5尺、高さ1・8〜1・2尺ほど。入ってすぐ、天井からぶら下がるコウモリが見付かった。20匹以上並んでいて、たんだた羽を広げかけたのも。「種類によって冬眠する環境の温度や湿度は違うんです」と上山さん。全部で100匹近くが冬眠中だといふ。

トンネルの底にはコウモリのおんが堆積し固まった「ダア」と呼ばれる山がいくつもある。夏の間は、繁殖して

いる証拠だ。江戸末期の史料にも「コウモリ飛び交うさま物すく」と書かれていて、当時から多かったらしい。

善工から300年近い歲月で、川による浸食が進み、壁面の一部が崖辺に残るだけの部分も。観光協会の安達一春事務局長は「子どもころ、大馬川が遊泳場所で、対岸の『へぐりのまんぼ』まで泳ぐのが上級生の証だった」と振り返る。40年前の話だ。

観光客が近づけるスポットではないが、「へぐりのまんぼ」で暮らすコウモリたちは毎年、大量の蚊などをエサとして食べることで人々を守っているのかも知れない。



①ぶら下がったまま冬眠中のコウモリ  
 ②③「へぐりのまんぼ」の入り口  
 ④高さ2尺、幅1.5尺ほど岩壁をくりぬいた「へぐりのまんぼ」。水がたまっている場所もある  
 =いずれも鶴岡市本郷

東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター  
〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3  
電話:0235-58-1730 FAX:0235-58-1731  
ホームページ: <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>